

# 地域 DOTS 事業への取り組み

～コホート検討会を実施して～

小野智美 工藤裕子 荒瀬みえ 後藤栄 山田隆司(高千穂保健所)

## 1 はじめに

当保健所では、県の DOTS 事業実施要領により、平成 17 年度から地域 DOTS に取り組んでいる。この DOTS 事業は、「院内 DOTS」に始まり、退院後の「地域 DOTS」、さらに、個別の患者支援計画を作成して見直しを行う「DOTS カンファレンス」、患者の治療成績を評価し事業全体の評価・見直しを行う「コホート検討会」から構成されている。今回、これまでの地域 DOTS の実施方法や患者支援の評価を行うため所内でのコホート検討会を実施したので報告する。

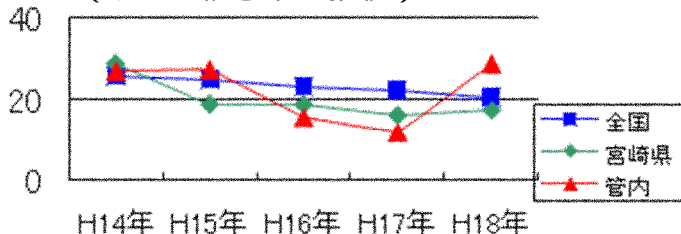
## 2 概要

### (1) 管内の状況

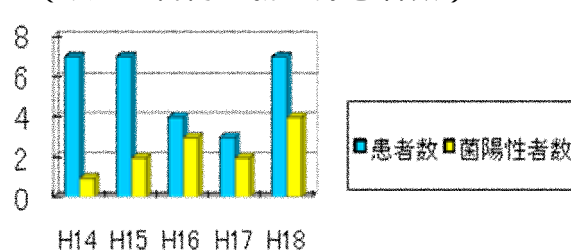
当保健所は 3 町を管轄し、人口は約 2 万 4 千人、高齢化率 34.3% である。

平成 18 年の管内の結核罹患率は人口 10 万対 28.9、有病率は 8.26 であり、新規登録患者 7 名のうち、70 歳以上が半数を占めている。

(表 1 罹患率の推移)



(表 2 管内の新登録患者数)



### (2) 地域 DOTS 実施状況

平成 17 年度から平成 19 年 3 月までに、喀痰塗抹陽性患者 8 名の服薬支援を実施した。

### (3) コホート検討会実施状況

- 1) 対象者 その年に登録された喀痰塗抹陽性患者のうち治療が終了した人。  
平成 18 年度は 4 名、19 年度は 2 名について実施した。(表 3)
- 2) 検討内容 治療成績や治療状況・菌所見の経過、服薬支援状況等
- 3) 構成員 保健所長、健康づくり課長、健康づくり担当リーダー、担当保健師
- 4) 様式 コホート検討会資料、検討項目チェック表

表 3 . 対象者の状況

年度	No	年齢	病型	塗抹結果	使用抗結核薬	地域 DOTS 期間
平成 18 年度	1	55	b 2	G4	IHN・RFP・EB・PZA	H18.2~H18.7
	2	78	b 3	G1	IHN・RFP・EB・PZA	H18.5 ~H19.2
	3	43	l 2	G2	IHN・RFP・EB	H18.5 ~H18.12
	4	75	b 2	G3	IHN・RFP・EB・PZA	H18.7 ~H18.11
平成 19 年度	5	77	r 2	G4	IHN・RFP・EB・PZA	H18.11~H19.9
	6	81	b 2	G2	IHN・RFP・EB	H19.4 ~H19.9

表 4 . 検討結果

項 目		結 果
初回面接の実施	2 週間以内の本人面接	100%
菌検査結果の把握	3 日連痰検査の実施	33.3%
	治療開始時の喀痰培養検査の把握	100%
	同定検査結果の把握	100%
治療は適切か	薬剤感受性検査結果の把握	83.3%
	標準治療（HR を含む 4 剤 or 3 剤）	66.6%
服薬支援	毎月のモニタリング	100%

### 3 考察

管内の患者の治療経過をみると、ほとんどの患者が地域の一般病院で結核と診断されると県外の結核専門病院で入院治療し、退院後は地域の一般病院に通院するという状況である。保健師は、専門病院から連絡を受けると直ちに、病棟内での患者面接を行うと同時に、医師やスタッフから情報収集を行っており、入院中の菌検査結果についても医療機関から定期的に連絡表が届くため、確実に把握できている。

しかし、専門病院での治療が終了し、一般病院での外来通院になると、治療後半の菌検査が実施されていないことがあったり、標準治療期間より短い期間で治療が終了している事例がある等の問題点が生じていることがわかった。

そのため、コホート検討会で使用するチェック項目については、申請時及び3ヶ月後にチェックすることにより、一般病院での治療状況を把握し、菌検査結果や薬剤感受性試験の結果等の情報をタイムリーに把握することにつながると考えられる。

また、今回、結核登録者情報システムを活用してみて、患者情報を定期的に入力しておくことで、菌情報や治療状況が自動的にコホート情報として反映され、治療成績が自動的に判定されるため、より正確な資料作成が可能となることがわかった。

コホート検討会は、これまで担当保健師が行っていた結核患者管理の評価を、医師や複数の保健師が参加して行うことにより、患者管理のあり方を客観的に評価できる場となり、個々の保健師の技術向上の機会にもなると考えられる。今年度は、地域の医療機関の医師や看護師がコホート検討会に参加できるような体制を作り、きめ細やかな情報提供を行っていきたい。

また、当管内だけでは対象者が少なく、治療成績の分析は困難であるため、感染症診査会結核部会や、宮崎東病院で毎月開催している入退院DOTSカンファレンス後にコホート検討会を開催することも有効ではないかと考える。

### 4 おわりに

地域DOTSは、適切な治療と服薬支援によって患者が薬剤耐性を獲得することなく確実に治癒し、再発が最小限になることによって、地域の結核が減少し、やがて根絶に至るための施策である。今後も、一人一人の患者の結果を集積し、コホート検討会で分析することにより地域に合った効果的な支援体制を整えていくとともに、地域の関係機関との連携を強化していきたい。

#### 参考文献

- 1) 地域保健 第35巻第6号 2004/6,7
- 2) 保健師・看護師の結核展望 NO.85 2005 前期
- 3) 複十字 NO.307 1/2006
- 4) 複十字 NO.311 9/2006
- 5) 複十字 NO.314 3/2007
- 6) 保健師・看護師の結核展望 vol.42 2004 前期